令和２年度 第１回 横浜市美術資料収集審査委員会 会議録

１ 日　時　令和２年12月21日（月）14時 ～ 15時50分
２ 場　所　横浜美術館　円形フォーラム、アートギャラリー１
３ 出席者　岡部 あおみ 委員、加藤 弘子 委員、草薙 奈津子 委員、建畠 哲 委員、中林 和雄 委員
４ 欠席者　金子 隆一 委員
５ 傍聴者　なし
６ 議事内容

議題	令和２年度収集候補作品の審査
決定事項 議事	１　委員長の選出 　横浜市美術資料収集審査委員会運営要綱第５条１項に基づき、委員の互選により、草薙委員を委員長に選出した。 ２　定足数の確認 　委員数６名のうち５名の出席により定数を充足しており、会議の成立を確認した。 ３　本委員会の公開・非公開について 〈審議結果〉 　横浜市の保有する情報の公開に関する条例第31条に基づき、作品説明と質疑については公開とし、審査報告書作成については非公開とした。 ４　収集候補作品の審査 　収集候補作品204点（寄贈174点、寄託30点）について、横浜美術館指定管理者が概要を説明した後、検分審査を行った。 　審議の結果、全会一致で上記204点について、収集が妥当との結論が出た。 　議事については以下のとおり。 ５　議題：令和２年度収集候補作品の審査 ※作品の収集形態及び作品番号については、【収集形態―番号】の形で示す。 【寄贈２～３】北 久美子《日本鳥類絵図…P》ほか計２点 （建畠委員） ・寄贈のきっかけは。 （横浜美術館） ・画廊経由でお話をいただいた。当美術館では既に孔雀の代表作を収蔵しているため、作風の変遷を示す初期の作品を希望した結果、こちらの２点の寄贈につながった。 【寄贈４～28】小林 ドンゲ《蝶の精》ほか計 25 点 （草薙委員長） ・「ドンゲ」という名前の由来は。 （横浜美術館） ・友人の僧侶に与えられた名前で、優曇華（うどんげ）という伝説の花に由来すると言われている。

【寄贈 33】澄川 喜一《そりのあるかたち》
（草薙委員長）
・この作品は重そうだが、分解することも可能なのか。
（横浜美術館）
・それなりの重量はある。１か所分解できる部分があるが、そこ以外は接合されている。
（岡部委員）
・欅でつくられているのか。
（横浜美術館）
・この作品は欅で作られているが、作者は様々な木材で作品を制作している。

【寄贈 34】百瀬 文《聞こえない木下さんに聞いたいくつかのこと》
（加藤委員）
・将来的な保存方法について、収集の際に作家と文書を取り交わしているのか。
（横浜美術館）
・昨今映像作品の収蔵が増えているが、収集の際にどのようなフォーマットで収蔵・変換するかを作家にインストラクションとして事前にまとめてもらっている。今後のメディアの変化に応じて、データのフォーマットや形式を変えることについても了解をもらっている。

【寄贈 35 】金氏 徹平《「第 4 回 COUMA 杯」優勝トロフィー》
（草薙委員長）
・トロフィーの横にあるピンポン玉は何か。
（横浜美術館）
・トロフィーとピンポン玉のセットでひとつのオブジェとなっている。

【寄贈 32、36～44】ポール・ジャクレー《《蟹》の下図》ほか計 10 点
（加藤委員）
・横浜美術館ではポール・ジャクレーのこれらの作品の版画を所蔵しているのか。
（横浜美術館）
・当美術館では 2003 年にポール・ジャクレー展を開催しており、その後、ご遺族から多くの作品をご寄贈いただいている。現在確認されているジャクレーの版画 162 種をすべて所蔵している。

【寄贈 62～138 】初代井髙歸山関連資料《初代宮川香山自筆書簡（井髙香溪［初代歸山］宛、9 月 1 日付）》ほか 103 点
（建畠委員）
・書簡はどの様に活用していくのか。
（横浜美術館）
・これまで収蔵した書簡類と同様にデータベース化して公開してゆく。書簡類を実見に来る研究者もおり、その研究成果の発表につながっている例もある。
（草薙委員長）
・横浜美術館にはこうした研究をする職員の時間はあるのか。研究のための時間は必要で、横浜美術館は規模が大きいのでこうした取組も率先して行ってほしい。
（横浜美術館）
・今回の資料を預かったのはだいぶ前だったが、コロナの影響による休館期間を活用して、調査・整理作業に時間を充てた。

【寄託１～30】草間 彌生《静物》ほか計 30 点

（建畠委員）

・どの程度の評価額となるのか。

（横浜美術館）

・作品や刷りにもよるが、一点あたり数十万円と認識している。オークションの結果を見ると百万円を超える作品もある。

（岡部委員）

・P.P.とは何を示しているのか。

（横浜美術館）

・プリンターズ・プルーフの略記で、作家の了解のもと、刷師が手元に残す刷りである。草間作品については各作品につき一点しかプリンターズ・プルーフは刷られておらず、貴重である。刷師と作家との関係性も見えてくる作品群である。

【その他】

（加藤委員）

・今回は寄贈と寄託だが、購入についてはいかがか。若手作家の支援という点において、購入は大きな支援といえる。購入予算がどうなっているか伺いたい。

（事務局）

・作品を購入する場合、文化基金を充てることとなるが、現残高が低い状況にある。今年度は横浜市の積立予算を計上出来ていないこともあり、購入を見送った。今後は色々なやり方で基金を充実していきたいと考えている。

（横浜美術館）

・トライアローグの展示作品を見ても分かるように、収蔵品は圧倒的に男性作家が多い。また、トリエンナーレで主張した「アジアやアフリカ、中東にアートの中心がある」という点も表現できていないし、90年代以降の作品の収集が途絶えている状況にある。コレクション展では横浜独自のアートシーンに焦点を当てて収蔵品を活用しているが、コレクションを総体的にチェックして欠けている部分を埋めていき、美術館が考えるコレクションの全体像を見せてゆくべきだと考える。若手作家の作品の購入などの支援も含めて、より良いコレクションの形成を横浜市と進めていきたい。

（加藤委員）

・購入でしか入手できないものもある。横浜らしいコレクションの形成を期待している。

（岡部委員）

・トライアローグ展の展示のなかで、男性作家の陰に隠れて評価が遅れ、コレクションに不足している女性作家の存在について解説パネルで触れていたが、文章のみで実作が展示されていないので、逆効果であると感じた。

（横浜美術館）

・コレクションの認識として女性作家という存在に対する意識がこれまで不足していたことを示唆する旨の解説だった。コレクションに足りていない部分を今後補っていきたい。

（草薙委員長）

・購入予算が無いというのは致命的なことであるので、少しでも良いから毎年予算がつくよう工夫し、美術館のコレクションを充実させてほしい。

議事は以上